

ROTARY SANJO SOUTH

国際ロータリー会長：グレン E. エステス（米国）

第2560地区ガバナー：横山 芳 郎（新潟）

第四分区アシスタントガバナー：細 井 増 雄（三条）

会長 石 山 莊 一 幹事 佐々木 常 行 SAA 丸 山 征 夫

三条南ロータリークラブ事務局 三条市旭町2 - 5 - 10（三条信用金庫本店内）

TEL：35-3477 FAX：32-7095 e-mail：info@sanjo-minami.jp

2004年10月27日 第1,719回

本年度 第12回例会



CELEBRATE
ROTARY



ロータリーを祝おう

100年の歩み

2004 - 2005

【出席率】 会員 64 名中 42 名

【先々週出席率】 94.83%

【ゲスト】 国際ロータリー第2560地区

ガバナー 横山芳郎様

地区幹事 小山盾夫様

第4分区アシスタントガバナー 細井増雄様

【先週のメイクアップ】

10 / 26 三条北へ 天田 匡君、星野健司君、目黒義雄君、西野治邦君、野島廣一郎君

3クラブ合同

横山芳郎ガバナー公式訪問

【会長挨拶】 渡邊 喜彦会長

3クラブを代表して、三条ロータリークラブ会長の渡邊喜彦ですがご挨拶申し上げます。

本日は、横山ガバナー、小山地区幹事、細井アシスタントガバナーようこそお出で下さいました。三条市の3クラブ会員こそって心より歓迎申し上げます。

本年は、当初7月28日に予定されておりましたが、7月13日の大水害により延期となり本日の開催となりました。その際は2560地区の皆様を始め横山ガバナー、そして各地ロータリークラブの方々より多くの心温まるご支援の金品やお言葉を頂戴いたしましたこと、3クラブを代表して心より御

礼申し上げます。

また、本日の予定で進めておりましたところ今度はつい先日10月23日夕方の新潟中越大地震が発生してしまいました。ガバナーにおかれましては、度重なる災害により各地の被災地ロータリークラブへの対応等で大変お疲れのことと推察申し上げます。どうぞくれぐれもご健康に留意されご活躍下さい。

さて、本年はロータリー創立100周年を迎えます。グレンE・エステスシニアRI会長の提唱されています「ロータリーを祝おう」のもと、大いに会員こそってお祝いしたいと思います。そして同時に、これから向かってゆく200年へ向け「歴代の諸先輩方の親睦と奉仕」により磨きをかけ「超私の奉仕」を基本に世界人類の幸せの実現に取り組んでまいりたいと思います。

どうぞ本日はよろしくご指導をお願い申し上げます。会長の挨拶とさせていただきます。

ニコニコBOX

～10月27日¥37,000 今年度累計¥359,560～

石 山 君 横山ガバナー有難うございます。

また地震が来ました。まいったなあ！

佐々木 君 横山ガバナー、小山地区幹事ようこそ三条へ。ご指導宜しくお願い致します。

佐藤（栄）君 「かにかくに 止まらぬものは 涙なり 人の見る目も 忍ぶばかりに」と三条地震の際に良寛様がよまれました。今回の地震をどの様によまれますか。

吉田（秀）君 横山ガバナーご苦労様です。会長・幹事さん協議会終了、一息つかれましたね。一般会員はこれから緊張！

鈴木（囧）君 ボックスに協力。それにしても地震を何とかして！！

大久保君、大原君、岡村君、嘉瀬君、木原君、熊倉君、佐藤（秀）君、白倉君、鈴木（幸）君
鈴木（武）君、住谷君、滝口君、田代君、田中（久）君、田中（正）君、田中（悌）君
坪井君、銅冶君、永桶君、西野君、西巻君、野水君、馬場（一）君、馬場（茂）君、馬場（信）君、
平松君、船久保君、松崎君、丸田君、丸山（徹）君、吉田（衛）君、渡邊君

横山ガバナー、小山地区幹事、細井AGをお迎えしてBOXに協力致します。

■ □ ■ 公式訪問記念卓話 □ ■ □

国際ロータリー第2560地区

ガバナー 横 山 芳 郎 様

横山芳郎でございます。お見受けしたところ私の先輩、同僚、後輩の方々が大勢居られまして、よその閲覧時の感じがございません。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず最初に三条地区、中越地区の水害のお見舞いを申し上げます。いろいろお話をお聞きます

と、まだ水害の解決が十分に行われていないというお話もあり、何とか一日も早い復興をお祈り申し上げます。また、本日カバナーの講和として歴代のロータリーのお話をお話しておりましたが、そういうことを言っている状態ではないということの方々から言われまして、講和を変更し、その方のお話をさせていただきたいと思います。初めの予定ではロータリーのことを身近に感じていただきたいということをお話したいと思っておりましたが、災害がこんなに多発致しますと



2560地区として、これを放って3おいて何か行事をやるってということがだんだんと後ろめたいというような感じになります。このすぐ前に地区大会があり、皆様大勢の出席をいただきまして私もほっとし、血圧も下がってきておりましたが、今度また中越地区に震災が起き、これに対してどの様にバックアップしてゆけばよいのか心を悩ましております。被災地区のアシスタントカバナーともなかなか連絡が取れません。連絡が取れても長岡との境のトンネルが阻害されて栃尾地区から外に出られないとお話をお聞きし、普通ならAGの方々にいろいろお願いするところですが、なかなかそういう単純な図式ではお願いするということが出来ない状態でございました。また、全国からどうするどうすると電話が来ますと、それに対してもいちいちお答えしなくてはなりませんし、例えば十日町に救援物資を送るのにどうすれば良いかと聞かれましても、私と致しましてはお答えするすべがないという状況が2、3日続いて居りました。昨日、新潟クラブの例会があり、新潟クラブの会長からも、地区はいったい何をしているんだとお叱りを受けました。私どもは私どもとして一生懸命やっているのですが、例えば県庁に電話して災害物資をどうやって送るかと聞きまして、県庁としてはここに電話するようにと番号は教えてくれますが、そこに電話をして通じないという状態がずっと続いており、新潟クラブの例会で何とかあなた方がしなければならないのではないかと盛んにお叱りを受けた次第です。また、100周年記念で新聞広告をするという件につきましても、それも寄付をお願いするということを各クラブに通知を出しただけで、そんなのんきなことを言っているのかとお叱りを受けました。これまでやってきたことをいろいろ説明しましたが、どうしても納得していただけないような状態でした。そこでいろいろ考えて見ますと地区というところは何回もこれまで申しましたように、力づくで各クラブにこれこれこの様にしなさいというような命令するような力は全然ないのです。これまではカバナーも地区もみんな偉い地区カバナーもおられましたが、私の席からは地区というのは一つのエージェンシー（代行機関）にすぎないようになり、上からRIの指示をクラブに伝え、クラブからはこういう時はどうしたらよいかを伝え、こういう時はこの様にしなさいと知らせる代理人のようになった訳です。これは私が考えたのではなくて、今年の2月にアナハイムに行きましていろいろ講義を受けましたがその時に、これまでのやり方をRIも考え方を換え、地区というものが優先するよりもクラブが優先するということを提唱して来ました。そしてRIの会長もロータリークラブで一番偉いのはRI会長ではなくて、120万の会員の皆さんと各クラブの会長さんが一番偉いとはっきりと言明されました。そういうことからしましても地区というものが「こうしなさい、ああしなさい」と立場ではないということを教えられ、日本に戻りましてもそういう形の中でいろいろ計画を立ててまいりました。そういうことを言いますと、これまでの古い方々からお叱りを受けます。地区というものはどんどん命令してクラブに何もかもやらせなければならないんだよと言われます。地区やカバナーが偉くないなんて言いますと、昔のゆったりとした壮大なロータリーの方が良かったなと言われ、身もふたもないような気持ちでございましたが、そういうふうにRIも少しずつ考え方を年々変えてまいりました。そし

て結局『地区』と申しますのは RI の考え方を皆様にお伝えするという説明義務があるということを感じ、そのことに徹しましてクラブに命令するということとはしないというふうにはっきりと割り切りました。もういろいろな会、ペッツでも地区協でも説明することに対してだけ一生懸命努力することにしました。

理解された方はそれなのに理解していただけたと思いますが、人間の脳の中にインプットされた思想というものは一長一短ではアウトプットしないもので、昔のロータリーが良いというふうな、そういうことが浸透するまでに3、4年は掛かるというふうに私は理解しております。そんなことで私は変なガバナー、いろいろ変わったことをやるガバナーと言われております。例えば今日の合同例会につきましても、こんなことをしていると RI からオミットされるぞと言う人がいました。今までは一つ一つガバナーがクラブをまわり講和をするということが普通でしたので、このようにまとめて講和をするということが非常に恥ずかしいことだと皆様は思っておられた訳ですが、しかし RI と致しましてはなるべく沢山の人たちにロータリーの考え方をカバナーの力を余り使わないようにして伝えてもらいたいということが眼目にございました。例えばアシスタントカバナーの制度も昔はそういうものではなく、皆ガバナーが行って講和をしたり、協議会をしたりいろいろ致しましたが、今では地区を近代化というプランの下、それをアシスタントガバナーにお願いするということが RI が提唱しアシスタントガバナーという制度を作り、いちいちガバナーがクラブに赴かなくてもアシスタントガバナーとクラブが密接に関係をしていただいてガバナーに報告をして頂く制度になってまいりました。そんなふうにロータリーの制度も年々少しずつ変わってきた訳でございます。それにしたがって私どもも動いておりますが、一番大事なことはロータリーの基本理念、そういうものに関しましては少しの変わりもないのです。理念まで変えるようではロータリーではなくなってしまうから、そういう制度が変わっても理念が変わるということはございません。そこだけは、はっきりさせておきたいと思っております。

災害のことに話は戻りますが、ロータリーの理念に沿って災害の処理をどういうふうにするかということは大変難しい事でございます。これまでに例がないことであり、震災につきましては阪神淡路の震災が9年前にありましたが、その時にやはり試行錯誤されてロータリークラブがどのように動いて力を発揮したかを、神戸の芦屋川クラブの田中毅パストガバナーに地区幹事が電話を掛けましていろいろお聞き致しました。その様子を例会前の会長幹事懇談会に於いてお話をさせていただきました。一口で申しますと、義援金を頂戴しておりますけれども、それをただ県庁とか赤十字とかにポンと出すということではなくてロータリーの理念に従ってそれを生かすように、それを奉仕に使えるような考え方にしてもらいたいと言う事でございました。そして三条地区の水害のことについてですが、水害の見舞金を新潟地区がいろんなクラブ或いは地区から頂戴いたしました、そのお金をアシスタントカバナーのお渡し致しましたが、その後ガバナー会という所が全国から募金を募りましてお金を集めてくれました。その時は新潟と福井の水害があり、新潟福井水害を援助するという名目でお金を集めてくれました。この前ガバナー会の折に両地区に送ろうとお話ございましたが、福井県のガバナーといろいろお話を致しまして、その後もいろいろと水害がありましたし、いろんな台風の災害もありました。それを全部いただくというのは心苦しいので、その事も考慮してということをお金の2地区から申請いたしました、このお金は新潟と福井の両地区のために集めたお金だから両地区に半分ずつ送るといって下さいまして2560地区に送られてまいりました。それは我々が地区で集めたお金よりも桁違いの金額であり、それをどういうふうに分配するか、それは地区がこれこれこういうふうに使いなさいとかとかではなく、聞きましたところ、三条地区のロータリアンの方が水害のために仕事をやめられロータリーを退会された方があったと聞い

ております。そういうことを考えますと各クラブが自分の所で考えて一番良い方法で使って頂いた方が良くと私どもは考えております。先程会長さんからお話がありましたように細井アシスタントガバナーの所にお集まりいただいて、各クラブの自主性によってそのお金をお使いいただくというふうにお話がありましたのでまた三条地区の皆様のご意向に沿ってそのお金を使っていたきたいと思います。三条だけではなくて長岡、栃尾、見附、のそういうところの水害もありますので、その分配方法を考えますとどういうふうにしたら一番良いのかと申し上げました。ここにお集まりの皆様ももしご意見がありましたら、クラブの会長さんや幹事さんに申し出いただいて一番良い方法を考えて行きたいということが今日のお話でございます。どうも有難うございました。



四つのテスト

一言行はこれに照らしてから

I 真実か どうか

III 好意と友情を深めるか

II みんなに公平か

IV みんなのためになるか どうか